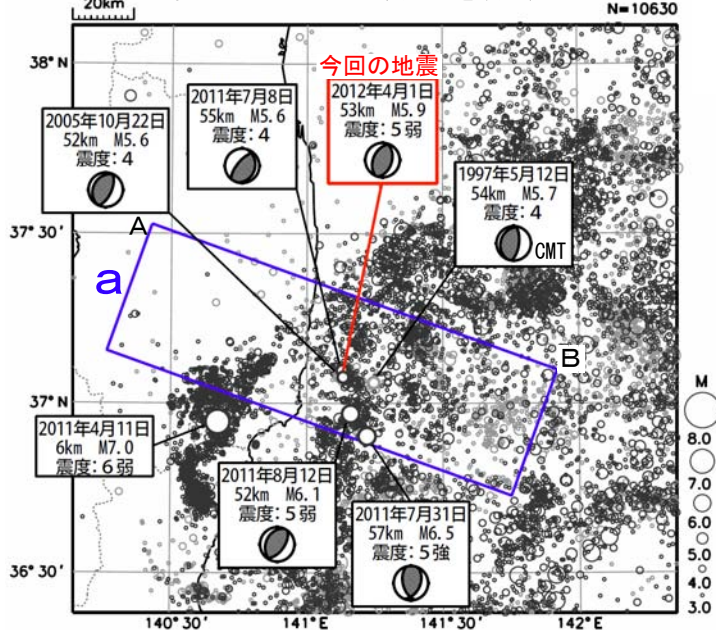


4月1日 福島県沖の地震

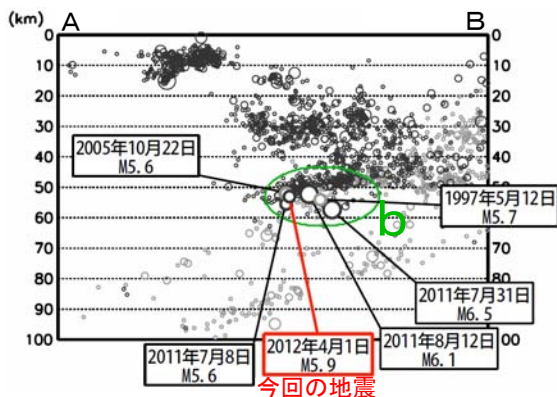
震央分布図※

(1997年1月1日～2012年4月7日、深さ0～100km、 $M \geq 3.0$)

東北地方太平洋沖地震以降を濃く表示



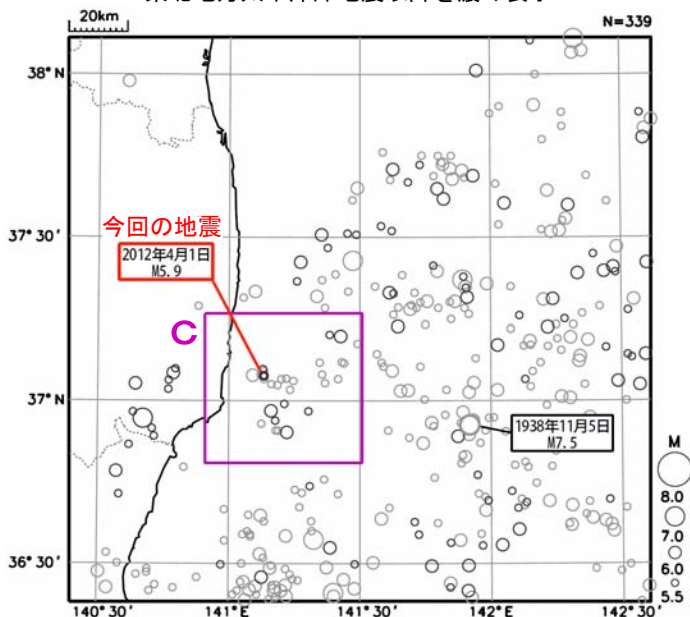
領域a内の断面図※ (A-B投影)



震央分布図

(1923年8月1日～2012年4月7日、深さ0～100km、 $M \geq 5.5$)

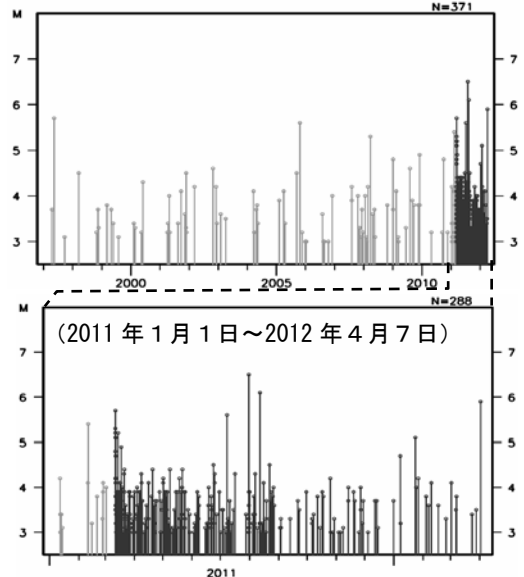
東北地方太平洋沖地震以降を濃く表示



2012年4月1日23時04分に福島県沖の深さ53kmでM5.9の地震(最大震度5弱)が発生した。この地震の発震機構は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

1997年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近(領域b)は、もともとM5.0以上の地震が時々発生するような場所だった。「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」発生後、地震活動が活発化したが、2012年4月7日現在、領域bでの地震活動は次第に低下している。

領域b内のM-T図※



※ 2011年3月13日～5月30日は未処理のデータがある。

1923年8月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近(領域c)では、M5.5以上の地震が10年に1～2回程度発生していた。領域cでの地震活動が活発な時期がこの期間中に2回あり、1つは現在も続く「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」の余震活動である。もう1つは1938年11月で、領域cを含む福島県沖から茨城県沖で、M7.5の地震を最大とするまとまった地震活動が発生していた。

領域c内のM-T図

